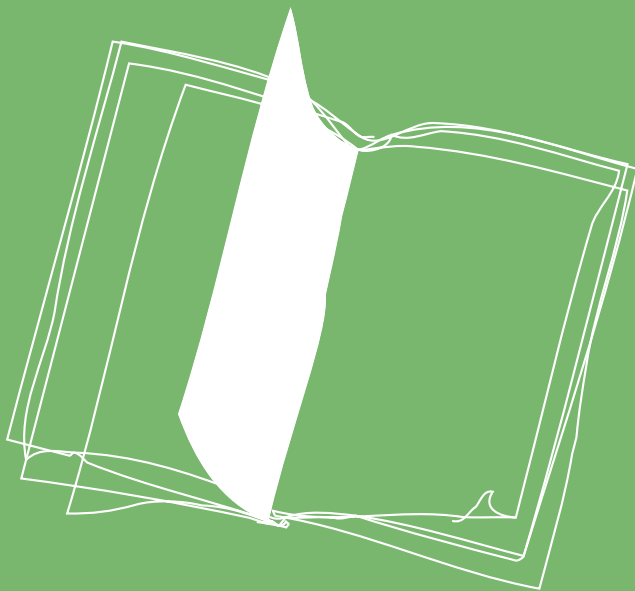
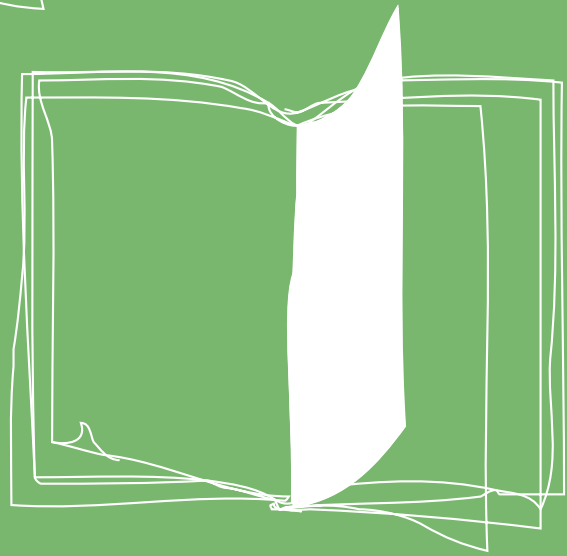
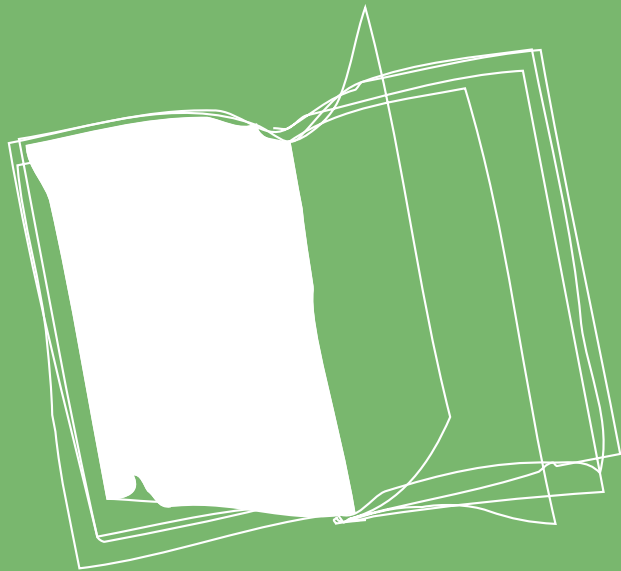


My Book Solution System



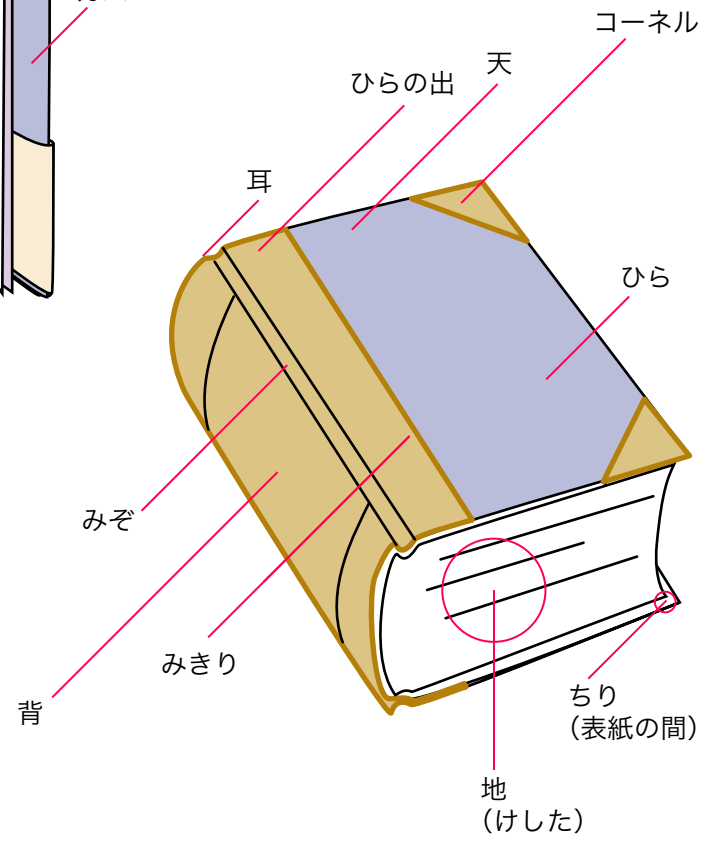
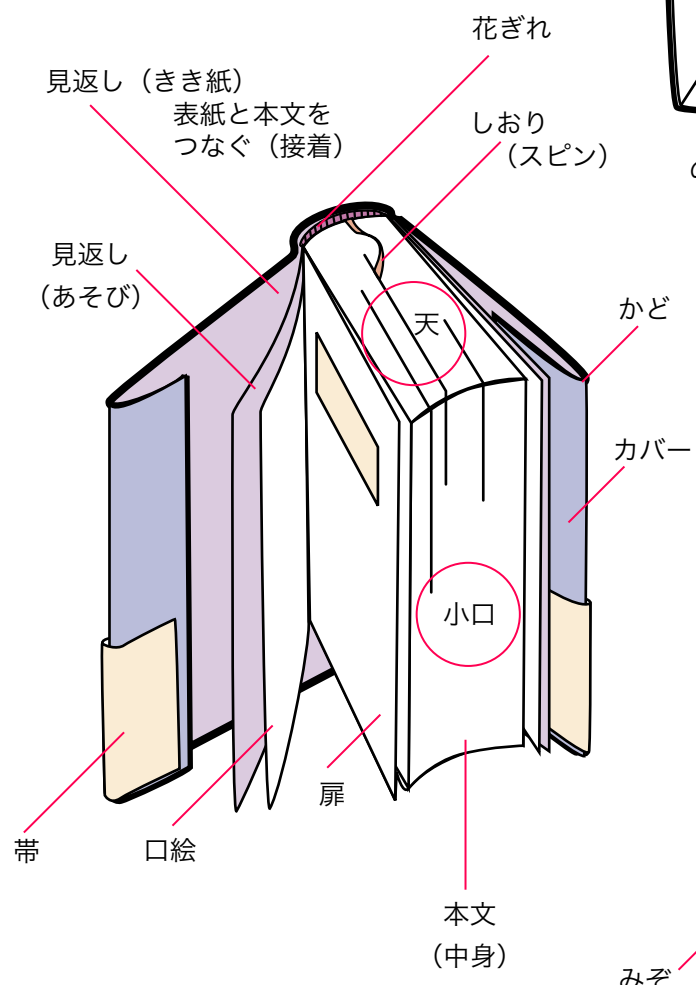
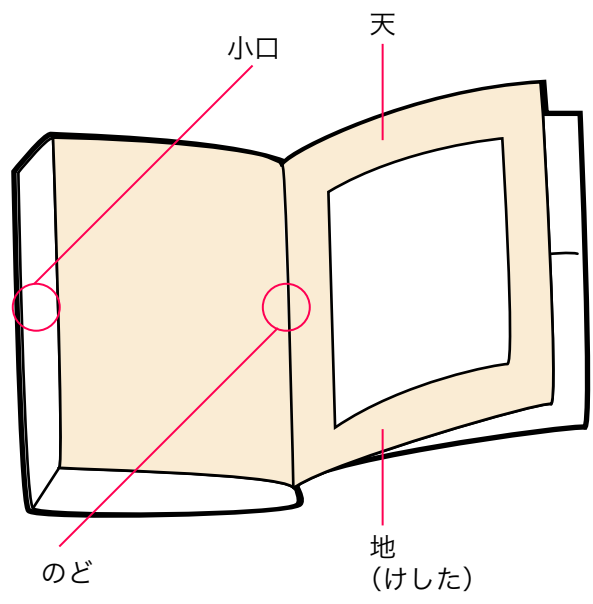
あなたの本作りサポート

Cand-B

書籍の各部名称

■ 造本の専門家が使う本各部の呼び方

「本づくり」の世界は、印刷・製本というように一括りに言われていますが、一冊の本を造本する過程では、作者と読者をつなぐものとして相応しい形となるよう、随所に工夫を凝らしています。



■ 製本スタイル

- 印刷した紙をまとめて本にすることを製本といいます。製本には色々なスタイルがあり、それぞれ必要な機能や本としての魅力ある雰囲気をつくり出します。
- 製本スタイルは、比較的ハンディータイプの本やカタログ、雑誌などに用いられる「ソフトカバー」タイプと、蔵書や単行本など格調高さを表したいときに相応しい「ハードカバー」タイプとに大別できます。

■ ソフトカバータイプ

● ソフトカバーの特徴

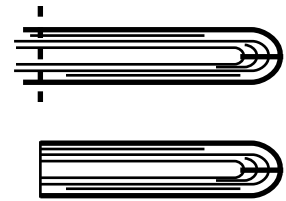
表紙：芯材がなく、中身の本文と表紙が同じサイズ。

綴じ方：針金、無線綴じ（糊づけ）など。

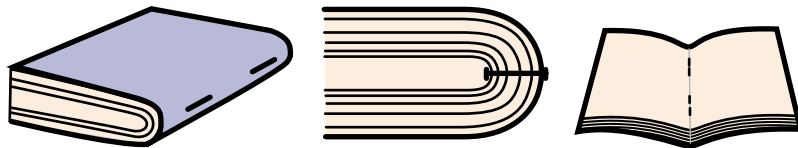
見返し：無い場合もあり、表紙とのつなぎは糊づけ。

（口糊）

製本加工では、表紙と一緒に化粧裁断します（右図）

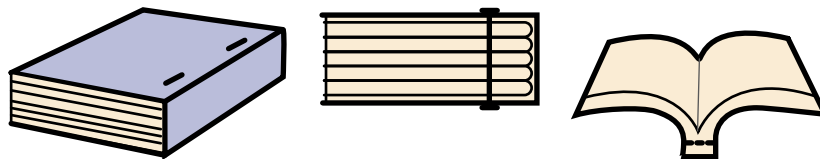


● 中綴じ



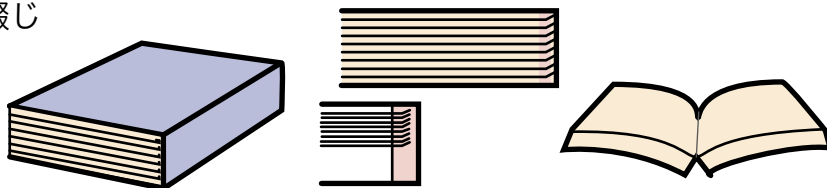
100頁程度までのムック本や雑誌、カタログなどによく用いられます。

● 平綴じ



綴じしる部分が開けませんので、割付時点で余白としておきます。

● 無線綴じ



合成糊で背と一緒に固めてあります。300頁程度の雑誌等に用いられます。

※ 糸かがり綴じ・アジロ綴じについては次ページ参照

■ ハードカバータイプ

● ハードカバーの特徴

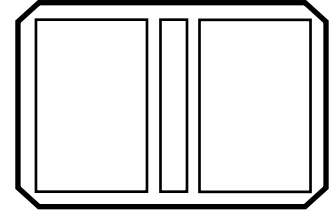
表紙：芯材があり、中身の本文より表紙が大きい。

綴じ方：折丁ごとにまとめて、ミシン目に糊を浸透させます。

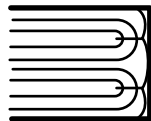
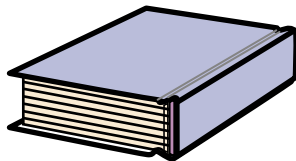
無線綴じとの違いは折丁の背を裁断しない点です。

見返し：きき紙と表紙裏を全面貼り合わせに用います。

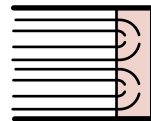
表紙は別加工で、見返しで本冊中身とつなぎます。



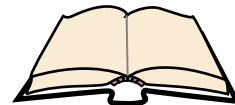
● 角背みぞ付き



糸かがり

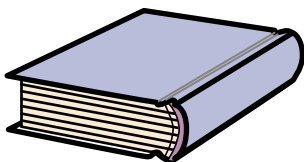


アジロ綴じ

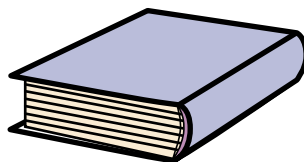


少し前までは、「糸かがり」という方法で綴じてきましたが、
今では「アジロ綴じ」という方法が多く用いられています。

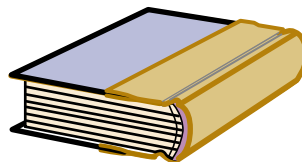
● 表紙と背合わせ



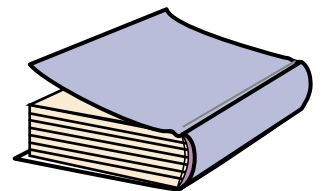
丸背みぞ付き



丸背つきつけ

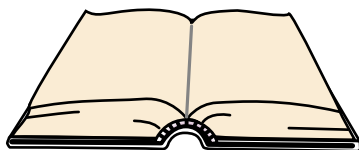


つぎ表紙

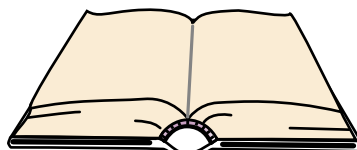


薄表紙

● 背の形式



フレキシブルバック

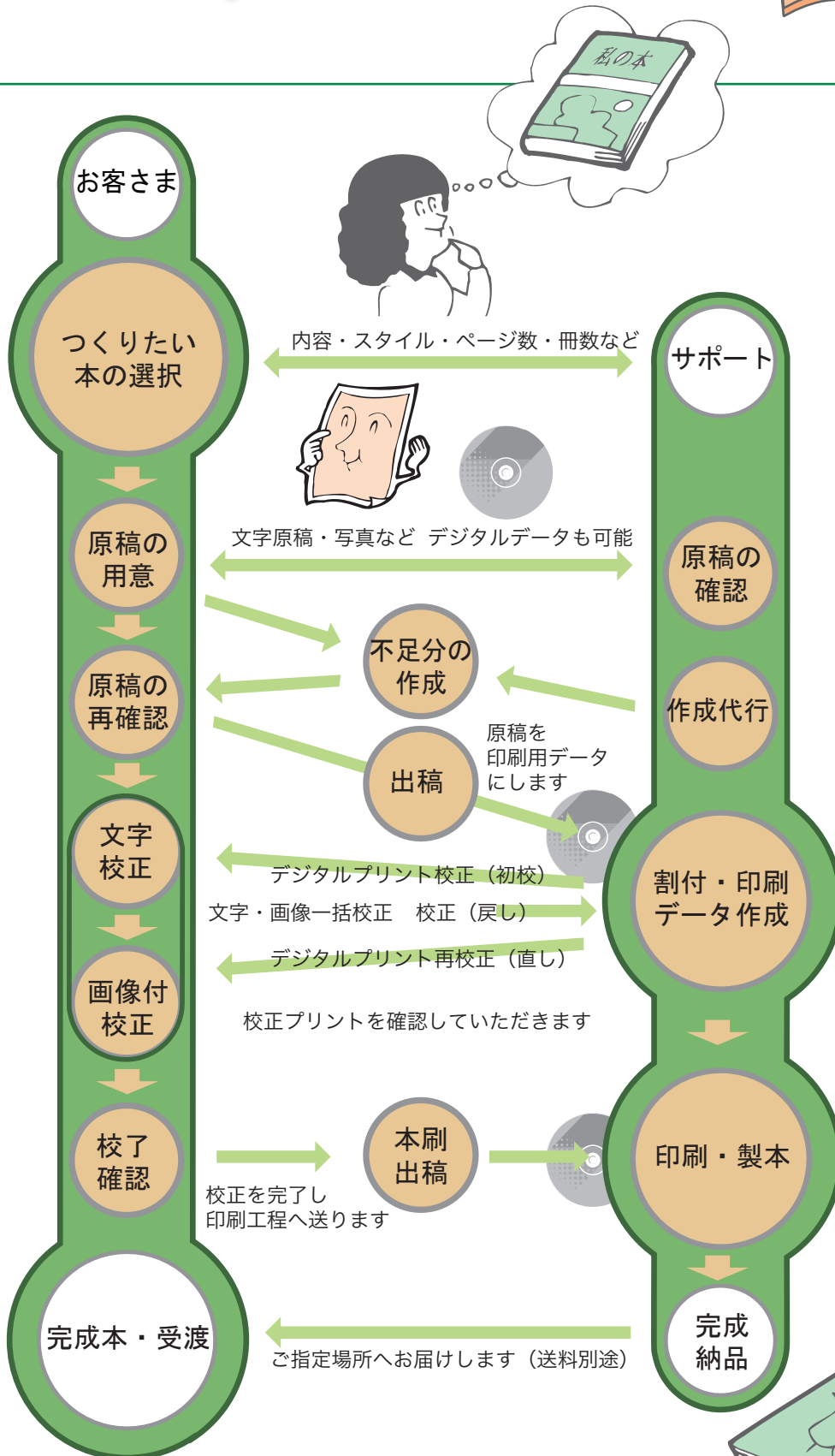
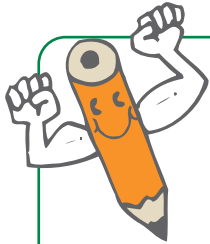
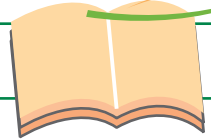


フォローバック

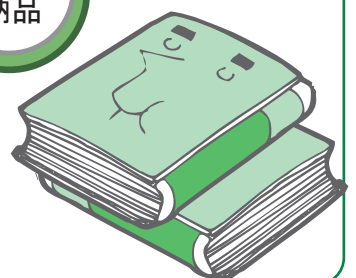


タイトバック

簡単! 本づくり



※CTPシステムによる印刷を前提としています。





あなただけのMy-story、時を超えて残したいMemorial-story…
本として、あるいは映像として、またネットで紹介しませんか。
多くの人に伝えたい気持ちを伝える情報としてお手伝いします。

パソコンやインターネットの普及した現在も、本や雑誌などの出版物はいつでも好きなときに好きな場所でゆっくりと見ることができ、価値のある情報手段として人気があります。

一般に、本づくりは難しいと考えられがちですが、編集や印刷などの簡単なアドバイスを受ければ、どなたでも簡単に作ることができます。

また、多くの費用が掛かるのではと心配される方もいらっしゃいますが、印刷や製本などの多様な選択肢からご予算に合った（思いのほか格安に）本づくりを選ぶことができます。

日々を綴った日記、次代に贈る書簡、釣りやゴルフなどの楽しい趣味の記録、絵や写真、俳句、詩集、エッセイ、友人知人からの手紙や年賀状など様々なコレクションの記録まで、メモリアルストーリーとして一冊の本を出版してみましよう。

どなたでも簡単に、しかも格安にできる本づくりをサポートいたします。

ご自身の構想をもとに、思いをより魅力的な冊子や映像にするため、プロがアドバイスや制作のお手伝いをいたします。



お問い合わせはこちらへ **E-mail : toiawase@cand-b.co.jp**

株式会社シーアンドビー

【関連ページ・M-S】

<http://candb.cand-b.co.jp/m-s/index.html>

【Official-site】

<http://candb.cand-b.co.jp/>

E-mail : toiawase@cand-b.co.jp

誠に申し訳ございませんが、初めての問い合わせにつきましては、お電話ではお受けいたしていません。一度、メールにてご要望・ご相談内容をお伺いして後に、ご連絡を差し上げさせていただきます。